

「

私は岐阜県の郡上の田舎で小さな保育園をやっています。先日とても嬉しい事がありました。それは当園の卒園児で、小児麻痺の障がいのあるY・Kちゃんがお母さんになって、その赤ちゃんを抱っこさせてもらった事です。30年近く前にYちゃんが入園した時、「障がいがあっても他の子と分け隔てする事なく接して欲しい」との御両親の願いに沿って保育させてもらってききましたが、困ったのは、園での初めての運動会の時、歩行も困難なYちゃんの「カケッコ競技」をどうするか、職員みんなで悩みました。でも私達の考えた過度な配慮や、手前勝手な思いやりなど吹き飛ばして、身体をくねらせ、やっとたどり着き、バンザイしながら顔をクシャクシャにして嬉しそうにゴールした時の感動は今でも忘れられません。体一杯に命の輝きを表していました。

『阿弥陀経』という経典に、「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」という処があります。それは、「人間はもとより、全ての生きとし生けるもの、山川草木に至るまで、その存在自体が各々に光り輝く命である事を、お互いにわかり合っていていける世界を浄土と言うんですよ」と教えてくださっている処です。

Yちゃんのその情景は、経典が示してくださっている事とは、まさにこの事なんだと、目頭が熱くなり、構えていたカメラののぞきレンズが曇ってきました。その感動を与えてくれ、本当に大切な事を教えてくれたYちゃんが結婚し、子宝に恵まれ、母になって、その赤ちゃんを抱っこできた事は、何事にも代え難い喜びでした。保育園をやっていて良かったとしみじみ思われ、人との出会いの縁、^{えにし}尊い命のつながりを感じさせてもらった貴重な出来事でした。